

# 「日本語教育の参照枠」読解 Can do の例文収集 ワークショップの成果と分析： 「日本語文章難易度判別システム」と 日本語教師による主観的判定によるモデル例文の検討

谷 誠司・宮崎 佳典・坂本 勝信・内山 夕輝

## 抄 録

本研究は「日本語教育の参照枠」の「読むこと」に関連する Can do に基づいて選定されたモデル例文を対象とし、2つの分析手法を用いて検討を行った。第1の分析手法では、「日本語文章難易度判別システム」を用いてモデル例文をリーダビリティ値や総文字数などから数値的に分析した。第2の分析手法では、日本語教師3名による主観的判定を通じて、Can do とモデル例文の適合度を評価した。

結果として、第1の分析手法では、同一レベル内のモデル例文でもリーダビリティ値や総文字数にばらつきがあったが、レベルごとのモデル例文の中央値を基準にすると、モデル例文のリーダビリティ値や総文字数がレベルに応じて変化することが確認された。第2の分析方法では、同一レベル内のモデル例文でも判定にばらつきが見られたが、判定者のコメントからレベルごとのモデル例文の特徴が明らかになった。例えば、各レベルに合った語彙や表現が求められること、A2.2以下のレベルでは視覚情報が必要なことなどである。両手法の結果を統合することで、各レベルに適したモデル例文の特徴を明らかにしたが、モデル例文の多くが500字以下であったこともあり、リーダビリティ値とモデル例文のレベルとの間に連関関係は見出すことはできなかった。

キーワード：日本語教育の参照枠、読むこと、Can do、例文分析、日本語文章難易度判別システム、日本語教師、主観的判定

## 1. はじめに

文化審議会国語分科会は令和3年10月に「ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment、以下 CEFR）」を参考に「日本語教育の参照枠」を公開した。「日本語教育の参照枠」は、「日本語の習得段階に応じた教育内容や方法を明確にし、外国人などが適切な日本語教育を継続的に受けられるよう、日本語教育に関わる全ての者が参照できる学習、教授、評価のための枠組み」（文化審議会国語分科会、2021）である。

この参照枠では、日本語能力の熟達度を「全体的な尺度」として6つのレベル（A1

～C2)に分け、日本語を使って具体的に何ができるかを能力記述文 (Can do statements、以下 Can do)を用いて示している。また、これらのレベルのほかに、「読むこと」「聞くこと」「話すこと (やりとり・発表)」「書くこと」という5つの言語活動に基づく下位尺度 (「言語活動別の熟達度」)で詳細に示している。

「日本語教育の参照枠」が参考にした CEFR の Can do は、教材やテストなどに幅広く活用されている。しかし、Green (2012) は、CEFR に基づいてテストを開発する際、基準となる Can do の記述が具体性に欠けている点、下位尺度を追加するだけでは作問者や評価者のニーズを十分に満たせず、「どのようなことがどの程度できるのか」「どのような状況であるのか」といった詳細な記述を加える必要がある点を指摘している。

「日本語教育の参照枠」の Can do は CEFR の Can do をほぼそのまま使用しており、同様の課題を抱えている。例えば、「説明書を読むこと」にある B1 レベルの Can do では「機器について、はっきりと書かれた簡潔な説明を理解できる」と記されている。しかし、「はっきりと」や「簡潔」といった表現が具体的にどのような言語的特徴を持つのかは明示されていない。また、Can do をどのように解釈するかについても個人差が生じる可能性がある。

このような課題を解決する1つの方法として、Can do に基づいて例文を収集し、その例文を複数人で検討したうえで、Can do の内容を反映していると判断される例文 (以下、モデル例文)を選定する作業が提案できる。このプロセスを通じて、作業者は Can do に対する理解を深めるとともに、複数の作業者が Can do の解釈を共有することも期待できる。

谷・宮崎・坂本・内山・河口 (2024) は、『日本語教育の参照枠』の「読むこと」に関連する Can do に基づき、日常生活で目にするさまざまな例文を事前課題として収集し、その収集した例文を参加者グループで検討したうえで、モデル例文を選定するワークショップについて報告している。

本稿ではこのワークショップで収集したモデル例文から「説明書を読むこと」にある Can do に対して選定されたモデル例文を (1) 日本語文章難易度判別システム (<http://jreadability.net/>) から言語的特徴を分析し、(2) 日本での日本語教育に携わっている日本語教師3名による主観的な適合性判定をすることで、モデル例文の検討を行う。

## 2. 調査デザイン

### 2.1. 調査に用いるモデル例文

調査に用いるモデル例文は谷・宮崎・坂本・内山・河口 (2024) で報告したワークショップ (2023年6月～12月) で収集されたモデル例文のうち、「説明書を読むこと」に記載の Can do について選定がなされたものである。「説明書を読むこと」にある Can do とモデル例文数は表1のとおりである。

表 1:「説明書を読むこと」の Can do とモデル例文数

No.	Can do	レベル	モデル例文数
1	もし難しい箇所を読み返すことができれば、条件や警告の詳細までも含めて、自分の関係分野の長い複雑な説明を理解できる。	B2	4
2	機器について、はっきりと書かれた簡潔な説明を理解できる。	B1	5
3	簡単な言葉で表現されていれば、例えば安全のためなどの規則が理解できる。	A2.2	4
4	公衆電話のような日常生活で見る機器についての簡潔な説明を理解できる。	A2.1	5
5	(例えば、XからYへ行くための) 短い、簡潔に書かれた方向指示を理解できる。	A1	6
6	特に絵などを含む、なじみのある日常的な状況で使用される非常に短い、簡単な指示を理解することができる。例えば、「駐車禁止」、「飲食禁止」など。	Pre-A1	7

## 2.2. 分析方法 1：日本語文章難易度判別システムによるモデル例文の言語的特徴分析

「日本語文章難易度判別システム」は、日本語教育関係者向けに設計されており、初級の前半・後半、中級の前半・後半、上級の前半・後半と 6 段階で文章の難易度を推定する。難易度推定で使われるリーダビリティ公式<sup>1</sup>は  $[\{平均文長 * (-0.056)\} + \{漢語率 * (-0.126)\} + \{和語率 * (-0.042)\} + \{動詞率 * (-0.145)\} + \{助詞率 * (-0.044)\} + (11.724)]$  である。また、リーダビリティ値だけでなく、総文数、総形態素数（延）、総形態素数（異）、総文字数（記号・空白を含む）、一文の平均語数、そしてリーダビリティ値によって推定される文章難易度も表示される。リーダビリティ値と文章難易度の対応関係は、以下のようになっている。

リーダビリティ値 (0.5 ～ 1.4)：上級後半（とてもむずかしい）

リーダビリティ値 (1.5 ～ 2.4)：上級前半（むずかしい）

リーダビリティ値 (2.5 ～ 3.4)：中級後半（ややむずかしい）

リーダビリティ値 (3.5 ～ 4.4)：中級前半（ふつう）

リーダビリティ値 (4.5 ～ 5.4)：初級後半（やさしい）

リーダビリティ値 (5.5 ～ 6.4)：初級前半（とてもやさしい）

上級後半の下限である 0.5 を下回る値、または、初級前半の上限である 6.4 を超える値が出た場合は、「判定不能」と表示される<sup>2</sup>。

また文章の難易度推定の前提として 500 ～ 1,000 字程度の「文章」を対象としており、1 文の場合は難易度推定の結果は信頼できるものではないとされている。本稿ではモデル例文ごとに「日本語文章難易度判別システム」で表示される文章難易度、リーダ

<sup>1</sup> リーダビリティ値とは、文章の理解しやすさを定量的に示した指標である。

<sup>2</sup> 仮にリーダビリティ値が 1.45 だったとき（上級後半、上級前半の）どちらにも所属しないことになってしまうが、「日本語文章難易度判別システム」では小数点算 2 値まで計算測定を行っており、レベル判定も表示される。本稿では表示された数値およびレベル判定を使用した。

ビリティ値、総文字数を基にして分析する。

### 2.3. 分析方法2：日本語教師によるモデル例文の主観的判定

日本での日本語教育に携わっている日本語教師3名がモデル例文を見て対応する Can do との一致度を5件法<sup>3</sup>で主観的に判定し、判定理由について任意でコメントを書いた。5件法による判定結果と判定コメントを基に分析を行う。

## 3. 結果と考察

### 3.1. 分析方法1：日本語文章難易度判別システムによるモデル例文の言語的特徴分析

本節ではレベル別に日本語文章難易度判別システムによるモデル例文の分析を行うことでモデル例文の言語的特徴を明らかにする。

#### B2

B2 レベルのモデル例文の分析結果は表2の通りである。B2 レベルの4つのモデル例文のうち、「中級後半」がモデル例文1～3であった。また総文字数を見ると、モデル例文1と3は総文字数が推定の前提である500字以下のため判定結果には注意が必要である。一方、モデル例文2と4は総文字数が581と577となっており、モデル例文間で差がみられる。

表2：B2 レベルのモデル例文の分析結果

	モデル例文			
	1	2	3	4
文章難易度	中級後半	中級後半	中級後半	中級前半
リーダビリティ値	3.22	3.12	2.94	4.1
総文数	3	17	5	16
総形態素数（延）	67	341	125	338
総形態素数（異）	43	149	76	128
総文字数（記号・空白を含む）	98	581	210	577
一文の平均語数	22.33	20.06	25.00	21.13

#### B1

B1 レベルのモデル例文の分析結果は表3の通りである。B1 レベルには5つのモデ

<sup>3</sup> 5件法の選択肢は以下の通りである。1. 全く反映していない（例文の内容が Can-do の記述と完全に一致しない。Can-do が求めるスキルや状況を全く含んでいない。）、2. ほとんど反映していない（例文の内容が Can-do の記述とほぼ一致しないが、一部に関連性が見られる。）、3. どちらとも言えない（例文の内容が Can-do の記述に部分的に一致するが、明確に一致しているとも不一致とも言えない。）、4. 概ね反映している（例文の内容が Can-do の記述にほぼ一致しており、大部分で適切である。）、5. 完全に反映している（例文の内容が Can-do の記述と完全に一致しており、Can-do が求めるスキルや状況を正確に表している。）

ル例文があり、「中級後半」がモデル例文 1～3 の 3 つであり、残り 2 つが「初級後半」と「中級前半」であった。また総文字数を見ると、モデル例文 4 は 38 と短く、モデル例文 1～3 は 105、177、82 と 100 字前後になっており、モデル例文 5 は 1477 と短くなっている。モデル例文 1～4 は総文字数が 500 字以下であり、推定結果には留意する必要がある。

表 3：B1 レベルのモデル例文の分析結果

	モデル例文				
	1	2	3	4	5
文章難易度	中級後半	中級後半	中級後半	初級後半	中級前半
リーダビリティ値	3.20	2.85	2.68	4.69	4.39
総文数	5	7	4	3	34
総形態素数（延）	67	104	48	22	845
総形態素数（異）	52	63	31	14	277
総文字数（記号・空白を含む）	105	177	82	38	1477
一文の平均語数	13.40	14.86	12.00	7.33	24.85

## A2.2

A2.2 レベルのモデル例文の分析結果は表 4 の通りである。すべてのモデル例文の総文字数が 500 字以下であるので、推定結果には注意が必要であるが、「上級前半」がモデル例文 1、「中級前半」がモデル例文 2～4 となった。また総文字数を見ると、モデル例文 1 と 3 は 22 と少なく、モデル例文 2 と 4 はそれぞれ 185、309 となっている。

表 4：A2.2 レベルのモデル例文の分析結果

	モデル例文			
	1	2	3	4
文章難易度	上級前半	中級前半	中級前半	中級前半
リーダビリティ値	1.57	3.92	3.84	4.45
総文数	1	4	1	9
総形態素数（延）	12	104	12	183
総形態素数（異）	11	59	12	94
総文字数（記号・空白を含む）	22	185	22	309
一文の平均語数	12.00	26.00	12.00	20.33

## A2.1

A2.1 レベルのモデル例文の分析結果は表 5 の通りである。すべてのモデル例文の総文字数が 500 字以下であるので、推定結果には注意が必要であるが、「中級前半」がモデル例文 1 と 2、「中級後半」がモデル例文 4 と 5、「初級前半」がモデル例文 3 であった。また総文字数を見ると、モデル例文 1 と 4 が 14 と少なく、モデル例文 2 と 5 はそれぞれ 127、178 と多くなっている。

表 5：A2.1 レベルのモデル例文の分析結果

	モデル例文				
	1	2	3	4	5
文章難易度	中級前半	中級前半	初級前半	中級後半	中級後半
リーダビリティ値	4.14	3.50	5.53	3.48	3.27
総文数	1	6	4	1	10
総形態素数（延）	8	77	24	9	101
総形態素数（異）	8	42	16	9	59
総文字数（記号・空白を含む）	14	127	38	14	178
一文の平均語数	8.00	12.83	6.00	9.00	10.10

## A1

A1 レベルのモデル例文の分析結果は表 6 の通りである。すべてのモデル例文の総文字数が 500 字以下であるので、推定結果には注意が必要であるが、リーダビリティ値が初級前半の下限である 6.4 を下回り「測定不可」となった例文がモデル例文 1 と 2、「初級前半」と「初級後半」がそれぞれモデル例文 3 と 4、「中級前半」と「中級後半」もそれぞれモデル例文 6 と 5 となった。総文数はすべて 1 となり、総文字数は 6 ～ 32 の範囲内となった。

表 6：A1 レベルのモデル例文の分析結果

	モデル例文					
	1	2	3	4	5	6
文章難易度	測定不可	測定不可	初級前半	初級後半	中級後半	中級前半
リーダビリティ値	7.24	6.64	5.52	4.66	2.89	3.66
総文数	1	1	1	1	1	1
総形態素数（延）	5	19	5	8	13	11
総形態素数（異）	5	16	5	8	13	11
総文字数（記号・空白を含む）	6	32	6	15	18	19
一文の平均語数	5.00	19.00	5.00	8.00	13.00	11.00

## Pre-A1

Pre-A1 レベルのモデル例文の分析結果は表 7 の通りである。Pre-A1 レベルには 7 つモデル例文があり、文字数が 10 字前後であるため、「測定不可」が 6 つ（モデル例文 2 ～ 7）、「初級前半」が 1 つ（モデル例文 1）であった。総文数はすべて 1 となり、総文字数は 2 ～ 26 の範囲内であった。

表 7：Pre-A1 レベルのモデル例文の分析結果

	モデル例文						
	1	2	3	4	5	6	7
文章難易度	初級前半	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
リーダビリティ値	6.40	7.30	10.74	-0.70	-0.93	-0.99	7.85
総文数	1	1	1	1	1	1	1
総形態素数（延）	5	4	10	5	1	2	12
総形態素数（異）	5	4	10	5	1	2	11
総文字数（記号・空白を含む）	15	8	14	11	2	4	26
一文の平均語数	5.00	4.00	10.00	5.00	1.00	2.00	12.00

レベルごとのモデル例文の特徴を見るために、各レベルの分析結果の中央値を表 8 にまとめた。文章の難易度推定の前提である 500 字以上という点を満たしていないモデル例文が多いので、リーダビリティ値はあくまでも参考値であるが、A2.2 と A2.1 で数値が逆転している以外はレベルが下がるほどリーダビリティ値が上がっている。つまり、レベルが下がるほどモデル例文がやさしくなっている。また総文字数も B1 と A2.2 はほとんど差がないが、全体としてレベルが下がるほど字数も減っている。

表 8：レベルごとのモデル例文分析結果の中央値

	B2	B1	A2.2	A2.1	A1	Pre-A1
リーダビリティ値	3.17	3.20	3.88	3.50	5.09	6.40
総文数	10.50	5.00	2.50	4.00	1.00	1.00
総形態素数（延）	231.50	67.00	58.00	24.00	9.50	5.00
総形態素数（異）	102.00	52.00	35.50	16.00	9.50	5.00
総文字数（記号・空白を含む）	393.50	105.00	103.50	38.00	16.50	11.00
一文の平均語数	21.73	13.40	16.17	9.00	9.50	5.00

### 3.2. 分析方法 2：日本語教師によるモデル例文の主観的判定

本節では、日本語教師 3 名によるモデル例文の主観的評価結果（5 件法：1. 全く反映していない……5. 完全に反映している）の分析を通じて、Can do 記述とモデル例文の適合性を議論する。

#### B2

B2 レベルのモデル例文に対する主観的判定結果は表 9 のようになった。全体として以下のような傾向が見られる。

1. 全体的に 4 または 5 の判定が多く、モデル例文が B2 レベルに適していると評価される傾向が見られる。（判定全体の平均値が 4.08）一方で一部の例文では判定が 3 や 2 と低めに評価されるケースもあり、例文の適切性に関して意見が分かれた。

2. 文章の長さや語彙の難易度に関するコメントが見られた。B2 レベルで求められる長さが合わない場合や漢字や専門用語が難しすぎる場合、判定が低くなる傾向が見られた。

モデル例文別の分析は以下ようになる。

1. モデル例文 1（ブルートゥースの説明文）

- ①判定平均：3.67  
 ②判定者 A と C は高く評価している一方で、文字数が少ないとコメントしている。  
 判定者 B は読み手の背景知識による理解のばらつきを指摘している。

2. モデル例文 2（電子レンジの据え付け説明文）

- ①判定平均：3.67  
 ②判定者 A と C は高く評価しているが、判定者 B は「漢字が難しすぎる」として 2 を付けている。判定者 A も「単語がやや難しい」とコメントしていることから、この例文では漢字や語彙の難易度が主な課題として浮上している。

3. モデル例文 3（小学生向けのリーダー養成講座の広報文）

- ①判定平均：4.33  
 ②判定者全体の評価が高く、「小学生の家庭では接触頻度が高い」とのコメント（判定者 A）がある。例文の長さについてもう少し長いほうが良いとの指摘が判定者 A と C からされている。

4. モデル例文 4（ハンディファンの説明文）

- ①判定平均：4.67  
 ②判定者全員から高評価を受けており、B2 レベルにおける理想的なモデル例文といえる。

表 9：日本語教師によるモデル例文（B2）の主観的判定

no	判定者 A		判定者 B		判定者 C	
	判定	判定理由	判定	判定理由	判定	判定理由
1	4	ブルートゥースの説明文なので、日常生活で接することが多い例文だと思う。もう少し例文が長く、図なども一緒にあるほうが現実性が高くなると思う。	3	難しい箇所（本機は 2.4 ～ 周波数帯）は本文章のポイントでない。関係分野かどうか読み手と学習者との関連がわからないが、下から 2 行が大切だと判断できれば、条件、警告の内容はわかる。	4	長いと一致するか？



2	4	電子レンジの据え付けに関する説明文で、日常生活で接することが多い例文だと思う。イラストもあり、例文の長さの面からも適切だと考える。ただ、単語がやや難しい(例「備え付け」「背面・側面」「吸気口、排気口」「結露」)	2	漢字が難しすぎて、読み返しても理解できないものも多い。	5	
3	4	小学生のためのリーダー養成講座の広報用の文章。内容的には小学生の子供のいる家庭では接することが多い文章。例文の長さももう少し長ければよい。	5		4	長いと一致するか？
4	5	ハンディファンの説明文なので、日常生活で接することが多い文章。イラストもあり、例文の長さの面からも適切だと考える。	4		5	

## B1

B1 レベルのモデル例文に対する主観的判定結果は表 10 のようになった。全体として以下のような傾向が見られる。

1. B1 レベルの例文に対する評価は全体的に低く、特にモデル例文 2 と 5 の低評価が目立った。(判定全体の平均値が 2.67) その中でモデル例文 1 は高い評価を受けた。
2. モデル例文が「日常生活で接する機会が多い文章」と評価される一方で、B1 レベルの学習者に適した語彙や表現になっていない場合、判定が低くなる傾向が見られた。また Can do に書かれている「機器」に関する例文でない場合、一致度が著しく低く評価されたが、どこまで厳密に適用するのかについてコメントもあった。

モデル例文別の分析は以下になる。

### 1. モデル例文 1 (ベビーチェアの説明文)

①判定平均：5.00

②判定者全員が 5 で判定し、「日常生活で接する機会が多い」「イラストも適切」とのコメント(判定者 A)もあり、B1 レベルにおける理想的なモデル例文といえる。

### 2. モデル例文 2 (コーヒードリップバッグの説明書)

①判定平均：1.67

②判定者全員が低評価を付けた。「機器の説明文ではない」「語彙や漢字が難しすぎる」といった点が主な理由であり、B1 レベルの学習者には不適切と判断された。

### 3. モデル例文 3 (ステンレスミニボトルの注意文)

①判定平均：2.67

②判定者 A と B が低評価を付けた一方で、判定者 C は比較的高い評価を与えている。低評価の理由としては「倒置文が理解しにくい」「イラストが注意点の理解を補助していない」といった指摘が挙げられている。

#### 4. モデル例文 4（洗濯機の注意文）

①判定平均：3.00

②判定者 A と B がやや低い評価を付けており、「体言止めの表現」「語彙の難しさ（例：手の挟みこみ、怪我、おそれあり）」が理解を妨げる要因とコメントをしている。

#### 5. モデル例文 5（スポーツゴミ拾いの説明文）

①判定平均：1.00

②判定者全員が一致して低評価を付けている。理由として、「機器に関する説明文ではない」という点が挙げられている。

表 10：日本語教師によるモデル例文（B1）の主観的判定

no	判定者 A		判定者 B		判定者 C	
	判定	判定理由	判定	判定理由	判定	判定理由
1	5	ベビーチェアの説明文なので、幼児がいる家では日常生活で接することが多い文章。イラストもあり、例文の長さの面からも適切だと考える。	5		5	
2	2	コーヒードリッパーの説明書なので、「機器についての説明文」ではない。Can do 自体は「機器」に限定しているが、下位尺度のタイトルにある「説明文」に寄せて考えれば、OKともいえる。どこまで厳密に適用するのか。イラストもあるが、単語が難しい（例「キリトリ線」「ふち」「蒸らす」）。	2	語彙と漢字が難しすぎて B1 レベルでは絵があっても、読み取れない部分が多い。そもそも機器ではない。絵もあまり助けにならない。	1	機器についてではない
3	2	ステンレスミニボトルの説明文（注意文）なので、一般的に接する文章。イラストもあるが、ボトルのボタなどの説明のイラストで、注意とは関係がない。単語や表現（例「おそれ」）が難しい。	2	倒置文のため、理由と結果の関係が読み取りにくいし、絵が助けになっていないため、留意点がわかりにくい。	4	おそれ。がはっきりと書かれた簡潔な説明と一致するか？

4	2	洗濯機の注意文なので、一般的に接する文章。イラストなく、箇条書きで体言止めである点や単語や表現が難しい点（例「手の挟みこみ」「怪我」「引火」）があり、理解しにくい。	3	はっきり書かれたと言えるのか。怪我の漢字が難しい。おそれありという表現もやや難しい。	4	おそれあり。がはっきりと書かれた簡潔な説明と一致するか？
5	1	スポーツゴミ拾いの説明文なので、「機器」についての説明文ではない。（モデル例文2と同じで、どこまで厳密に適用するのかの判断が難しい。）	1	スポーツとゴミ拾いの関係がおそらく読み取りにくく、なんのことかわからないのではないかな。そもそも機器ではない。	1	機器についてではない

## A2.2

A2.2 レベルのモデル例文に対する主観的判定結果は表 11 のようになった。

全体として以下のような傾向が見られる。

1. 評定全体の平均値は 3.42 であり、一致度が高い（4～5）ものから低い（1～2）ものまで幅広い結果となった。モデル例文 4 は判定が高く、モデル例文 2 は低く判定された。
2. A2.2 レベルの学習者にとって理解しやすい語彙や表現を用いているかが重要視されている。また、イラストの有無や内容の関連性が理解の助けになるか否かが判定に影響を与えている。また Can do に書かれている「安全のためなどの規則」に関する例文でない場合、一致度が著しく低く評価されたが、Can do の記述内容をどこまで厳密に適用するのかにについてのコメントもあった。

モデル例文別の分析は以下になる。

1. モデル例文 1（セルフ給油のガソリン計量機の静電気防止注意書き）

①判定平均：3.00

②判定者 C は一致度 5 と高評価を付けたが、判定者 A と B は「日本語のみでは意味が取りにくい」として低評価を付けている。「イラストと簡単なフレーズ(例:「はじめにタッチ！」)」が補助的に意味を伝える要素として評価される一方、文章からだけの理解には課題があるとのコメントも見られる。

2. モデル例文 2（紅茶のティーバッグの説明文）

①判定平均：2.00

②判定者全員が低評価を付けており、「語彙の難しさ（例:「沸騰」「蒸らす」）」「安全に関する情報の欠如」が課題として挙げられている。さらに、Can do にある「安全のためなどの規則」に一致しない点が低判定につながっている。

3. モデル例文 3（ステンレスミニボトルの注意文）

①判定平均：3.67

②判定者 C は一致度 5 と評価したが、判定者 A と B は「語彙が難しい」としてや

や低評価を付けている。「絶対に入れない」といったキーワードは分かりやすいが、「ドライアイス」や「炭酸飲料」などの専門用語が学習者にとってハードルになる可能性が指摘されている。

#### 4. モデル例文 4（地震対策の持ち物リスト）

①判定平均：5.00

②判定者全員が高評価を付けており、「文が短く優しい日本語で書かれている」「持ち物リストという形式が分かりやすい」と評価されている。A2.2 レベルの学習者にとって適切であり、モデル例文として理想的といえる。

表 11：日本語教師によるモデル例文（A2.2）の主観的判定

no	判定者A		判定者B		判定者C	
	判定	判定理由	判定	判定理由	判定	判定理由
1	3	セルフ給油のガソリンスタンドにあるガソリン計量機にある静電気防止の注意書き。手のイラストとイラストにある「初めにタッチ！」で意味は分かるが、挙げられている例文を理解するのは難しい。	1	日本語のみからは意味が取れないのではないかと。むしろ意味がとれるとすれば、原文の写真と「はじめにタッチ！」からかと思われる。	5	
2	2	紅茶のティーバッグの説明文。Can do 自体は「機器」に限定していない。（ただし、Can do に書かれている「安全のためなどの規則」に合わせた例文に限定するのか、下位尺度のタイトルにある「説明書」に合わせて広く例文を探してもいいのかで判断が変わる。）イラストもあり、なんとなく分かるが、単語が難しい（例「沸騰」「熱湯」「蒸らす」「フタ」「当たり」「目安」）	3	簡単な言葉と言えない語彙も多い。ただし、キーワードとなる語彙はなんとか読み取れそう。一番の問題は、安全のための規則は一切書かれていないこと。	1	例えば安全のためなどの説明と一致しない
3	3	ステンレスミニボトルの説明文（注意文）なので、一般的に接する文章。注意事項の文の内容を表すイラストもあり、分かりやすい。ただ、単語が難しい（例「ドライアイス」「炭酸飲料」「絶対」）	3	ドライアイス、炭酸などは難しくてわからないかもしれない。ただし、「飲料」「絶対に入れない」はわかる。	5	
4	5	地震のために準備しておくもののリスト。文も単文で優しい日本語で書かれている。例文の分量的にはやや長く感じるが、持ち物リストなので、単語が多い。	5		5	

## A2.1

A2.1 レベルのモデル例文に対する主観的判定結果は表 12 のようになった。

全体として以下のような傾向が見られる。

1. 判定全体の平均値は 3.47 であり、例文ごとに評価のばらつきが見られた。高評価(4～5) が付けられた例文はモデル例文 3 と 4 であり、低い評価がされた例文はモデル例文 5 であった。
2. 「イラストなどの視覚的要素」が理解の助けになっている例文は評価が高い。また「使用されている語彙の難易度」が一致度に影響を与える重要な要素である。一方で、Can do の記述内容(「機器についての簡潔な説明」)をどこまで厳密に適用するののかに対する考えの違いが見られた。

モデル例文別の分析は以下になる。

### 1. モデル例文 1 (ゴミ箱の注意書き)

①判定平均：3.00

②判定者 A と B は比較的高評価(3・5)を付けているが、判定者 C は「Can do が機器に限定されている」点を理由に低評価(1)を付けている。判定者 B は「機器」ではないことを認めつつ、5 で判定していることから、Can do の記述内容への解釈に対する判定者間の違いが顕在化している。

### 2. モデル例文 2 (電子レンジの説明文)

①判定平均：3.67

②判定者 A と B は「イラストが理解の助けになるが、語彙の難しさ(例:「庫内」「解凍」)」を指摘しており、判定者 C は高評価(5)を付けている。イラストが分かりやすさを補強している一方で、一部の語彙が A2.1 レベルの学習者には難しいと判断されている。

### 3. モデル例文 3 (空気清浄機の説明文)

①判定平均：4.33

②判定者全員が比較的高い評価を付けており、「おまかせ」「点灯」といった語彙の難しさは指摘されたものの、イラストや実物があればさらに分かりやすくなっているとしている。また、「よく見る漢字」が使われている点も評価されている。

### 4. モデル例文 4 (電子レンジの注意事項)

①判定平均：4.33

②判定者全員が高評価を付けており、イラストが内容の理解を助けている点が評価されている。「火気」などの難しい語彙もイラストによって補完されているため、A2.1 レベルの学習者にとって適切と判断されている。

### 5. モデル例文 5 (カレールーの説明文)

①判定平均：2.00

②判定者全員が低評価を付けており、「機器についての説明文ではない」「語彙が難しい(例:「炒める」「加える」)」ことが課題として挙げられている。例文の分量

が多く、A2.1 レベルには適合しないと判断されている。

表 12：日本語教師によるモデル例文（A2.1）の主観的判定

no	判定者A		判定者B		判定者C	
	判定	判定理由	判定	判定理由	判定	判定理由
1	3	ゴミ箱の注意書き。1文で「すててください」とひらがなで表記されていてわかりやすい。「機器」に関する例文ではない。（ただし、Can do 自体は「機器」に限定しているが、下位尺度のタイトルにある「説明文」に寄せて考えれば、OKともいえる。）	5	機器ではないが。。。。	1	機器ではない
2	3	電子レンジの説明文。イラストもあり、分かりやすいが、単語が難しい（例「食品」「庫内」「出力」「切換」「解凍」「余熱」）	3	順番を表す番号と絵などは助けになる。しかし、難しい語彙がネック	5	
3	4	空気清浄機の説明文。単語が少し難しい（例「おまかせ」「点灯」）。イラストか実物があれば、より分かりやすい。	4	よく見る漢字と意味 例 押 入 切	5	
4	5	電子レンジの注意事項。イラストが注意事項を表していてわかりやすい。「火気」が難しい。	4	漢字と絵から読み取れそう	4	
5	2	カレールーの説明文で「機器」についての文章ではない。（ただし、モデル例文1でのコメントと同じで、例文探しにおいて「機器」をどこまで厳密に適用するのかの判断が難しい。）分量も多く、単語も難しい（例「具材」「炒める」「強火」「合いびき肉」「加える」「混ぜ合わせる」）	3	簡単とは言えない語彙も多い。	1	機器ではない

## A1

A1 レベルのモデル例文に対する主観的判定結果は表 13 のようになった。

全体として以下のような傾向が見られる。

1. モデル例文 1・3・6 は評定が高く、モデル例文 5 は評定が低く、判定のばらつきが確認された。
2. 判定理由として、以下のポイントが判定者に共通して数多く挙げられた：①視覚

的要素の重要性：イラストや図があることで理解が助けられるとの意見が多く、特に視覚的な情報が評価に影響を与えることが示された。②語彙の難易度：難しい単語や表現が含まれる場合、理解が妨げられるとの指摘があった。③表現の簡潔さ：短く簡潔な表現が理解を助けるとの意見があり、特に A1 レベルではこの点が重要視される。

3. Can do に書かれている「方向指示」に関する例文でない場合、一致度が著しく低く評価されたが、Can do の記述内容をどこまで厳密に適用するのかについてのコメントもあった。

モデル例文別の分析は以下ようになる。

1. モデル例文 1（葬儀場までの距離を示す広告）

①判定平均：5.00

②全員が高評価を付与し、簡潔さと視覚的な指示（矢印）が理解を助ける要素として評価された。判定者 B は「↑」の追加を提案し、視覚的な情報の重要性を指摘している。

2. モデル例文 2（区役所への車でのアクセス説明文）

①判定平均：2.67

②判定者 A は動詞の欠如を指摘し、理解が難しいと評価した。判定者 C も同様の理由で低評価を付け、具体的な表現の必要性が浮き彫りになった。

3. モデル例文 3（病院までの行き方を示す広告）

①判定平均：4.67

②判定者全員が高評価を付与し、視覚的な要素が理解を助けるとの意見が一致した。漢字の難しさが指摘されたが、全体的には良好な評価を得た。

4. モデル例文 4（トイレ改修中案内）

①判定平均：3.33

②判定者 A と C は「東側」という表現が難しいと指摘し、判定者 C は方向指示の明確さに疑問を呈した。

5. モデル例文 5（コンセントをぬれた手で触ってはいけない注意文）

①判定平均：2.00

②判定者全員が低評価を付け、特に語彙の難しさが理解を妨げる要因として挙げられた。Can do にある「方向指示」の適合性にも疑問が持たれた。

6. モデル例文 6（老人ホームまでの行き方を示す広告）

①判定平均：4.33

②判定者全員から高評価を受け、視覚的な要素や具体的な指示が理解を助けるとのコメントと同時に単語の難しさにも指摘があった。

表 13：日本語教師によるモデル例文（A1）の主観的判定

no	判定者A		判定者B		判定者C	
	判定	判定理由	判定	判定理由	判定	判定理由
1	5	葬儀場までの距離を示す電信柱にある広告。簡潔で矢印があるのでわかりやすい。	5	「↑」までであるとよい。	5	
2	2	区役所への車でアクセスについての説明文。動詞のない1文で、わかりにくい。	4		2	国道を北へおよそが短い、簡潔にと一致しない
3	5	病院までの行き方を示す電信柱にある広告。信号のイラストや矢印でわかりやすい	4	漢字は難しいが、絵があるので、わかる	5	
4	3	トイレ改修中案内。「東側」が難しい。	5		2	東側が簡潔と一致しない。方向指示と言えるか？
5	2	コンセントをぬれた手で触っていけないと注意する文。Can do にある「方向指示」とは異なる例文。（Can do の記述内容をどこまで厳密に適用するのかの判断が難しい。）イラストあり。単語が難しい（「ぬれる」「触る」）	3	てはいけません と絵でわかるが、日本語自体は難しい	1	方向指示ではない
6	4	老人ホームまでの行き方を示す道路にある広告。距離の数字や矢印があってわかりやすい。「右折」「見える」の単語が難しい。	4		5	

### Pre-A1

Pre-A1 レベルのモデル例文に対する主観的判定結果は表 14 のようになった。

全体として以下のような傾向が見られる。

1. 全体的に高判定の例文が多く、判定全体の平均値は 4.09 である。モデル例文 1・2・3・5・6 は評価が高い。一方で、モデル例文 4・7 は評価が低い。
2. 判定理由として、以下のポイントが判定者に共通して挙げられた：①視覚的要素の重要性：イラストや図があることで理解が助けられるとの意見が多く、特に視覚的な情報が評価に影響を与えることが示された。②語彙の難易度：難しい単語や表現が含まれる場合、理解が妨げられるとの指摘があった。③英語の補助：英語があることで理解を助けているとのコメントもあった。
3. Can do にある「指示」をどこまで厳密に適用するののかについてのコメントがあった。



モデル例文別の分析は以下になる。

1. モデル例文 1（館内禁煙の表示）

①判定平均：4.33

②判定者 A と B は「館内」がイラストからは伝わらないため難しいと指摘したが、全体的には理解しやすいと評価された。

2. モデル例文 2（非常口の表示）

①判定平均：5.00

②判定者全員が高評価を付与し、イラストと英語の「EXIT」があることで分かりやすいとの意見が一致した。

3. モデル例文 3（バス乗り場の表示）

①判定平均：5.00

②判定者全員が高評価を付与し、イラストと英語の「Bus Stop」があることで分かりやすいとの意見もあった。

4. モデル例文 4（「まぜるな危険」と「駐車禁止」の表示）

①判定平均：2.33

②判定者 A は「分かりにくい」と評価し、イラストがないことが理解を妨げる要因として挙げられた。判定者 C も「絵などを含んでいない」と指摘し、指示の明確さが不足していると評価した。

5. モデル例文 5（禁煙の表示）

①判定平均：5.00

②判定者全員が高評価を付与し、イラストと英語の「NO SMOKING」があることで分かりやすいとの意見もあった。

6. モデル例文 6（飲食禁止の表示）

①判定平均：5.00

②判定者全員が高評価を付与し、イラストと英語の「NO FOOD or DRINK EXIT」があることで分かりやすいとのコメントもあった。

7. モデル例文 7（カレールのパッケージ）

①判定平均：2.00

②判定者 A と C は「指示文ではない」ことをコメントしている。判定者 B は「一絡の漢字が難しい」と指摘した。

表 14：日本語教師によるモデル例文（Pre-A1）の主観的判定

no	判定者 A		判定者 B		判定者 C	
	判定	判定理由	判定	判定理由	判定	判定理由
1	4	館内禁煙の表示でイラストもあり。禁煙はイラストでわかるが、「館内」はイラストからは伝わらないので、難しい。	4	館内がわからない	5	

2	5	非常口の表示でイラストと英語の EXIT もあるので、分かりやすい。	5		5	
3	5	バス乗り場の表示でイラストと英語の Bus Stop もあるので、分かりやすい。	5		5	
4	2	「まぜるな危険」と「駐車禁止」が一緒に使われているので、分かりにくい。イラストもない。	3	わかるわからない半々。まぜるな危険は意味不明	2	絵などを含んでいない。
5	5	禁煙の表示でイラストと英語の NO SMOKING もあるので、分かりやすい。	5		5	
6	5	飲食禁止の表示でイラストと英語の NO FOOD or DRINK もあるので、分かりやすい。Can do にも書かれている例と同じ。	5		5	
7	1	カレールーのパッケージ。「レタスと一緒に」「パスタに」は指示文ではない。	3	一緒にの漢字が難しい。ドライ、キーマが難しそう。	2	指示ではない。ドライキーマカレーがわからないと、この絵では理解が難しい

### 3.3. 分析方法 1 と分析方法 2 のまとめ

レベル別に分析方法 2 で高い判定をされたモデル例文（判定平均が 433 以上）に分析方法 1（日本語文章難易度判別システム）の結果を示すことで、2 つの分析方法の結果を統合する。（表 15）

表 15：分析方法 1 と分析方法 2 のまとめ

レベル	モデル例文番号	文章難易度	リーダビリティ値	総文字数(記号・空白を含む)	コメント
B2	4	中級前半	4.10	577	500 字以上。日常生活で接することが多い例文。
B1	1	中級後半	3.20	105	100 字前後。日常生活で接することが多い例文。B1 レベルに適した語彙や表現。
A2.2	4	中級前半	4.45	309	300 字前後。A2.2 レベルに適した語彙や表現。理解を助けるイラストなどの視覚情報が必要。
A2.1	3	初級前半	5.53	38	10 字から 40 字程度。A2.1 レベルに適した語彙や表現。理解を助けるイラストなどの視覚情報が必要。
	4	中級後半	3.48	14	
A1	1	測定不可	7.24	6	5 字から 20 字程度。A1 レベルに適した語彙や表現。理解を助けるイラストなどの視覚情報が必要。
	3	初級前半	5.52	6	
	6	中級前半	3.66	19	

Pre-A1	1	初級前半	6.40	15	2 字から 15 字程度。Pre-A1 レベルに適した語彙や表現。理解を助けるイラストや英語翻訳が必要。
	2	測定不可	7.30	8	
	3	測定不可	10.74	14	
	5	測定不可	-0.93	2	
	6	測定不可	-0.99	4	

モデル例文の多くが 500 字以下であったこともあって、文章難易度やリーダビリティ値とモデル例文のレベルとには、連関関係は見出しにくい。一方で、文字数は B1 と A2.2 で逆転はしているが、レベルとの連関関係はある程度確認できる。また、A2.2 以下では視覚情報が必要であり、Pre-A1 は視覚情報に加えて英語の翻訳が必要であると思われる。

#### 4. 終わりに

本研究は「日本語教育の参照枠」の「読むこと」に関連する Can do に基づいて選定されたモデル例文を対象とし、2つの分析手法を用いて検討を行った。第1の分析手法では、「日本語文章難易度判別システム」を用いてモデル例文をリーダビリティ値や総文字数などから数値的に分析した。第2の分析手法では、日本語教師3名による主観的判定を通じて、Can do とモデル例文の適合度を評価した。

結果として、第1の分析手法では、同一レベル内のモデル例文でもリーダビリティ値や総文字数にばらつきがあったが、レベルごとのモデル例文の中央値を基準にすると、モデル例文のリーダビリティ値がレベルに応じて変化することが確認された。第2の分析方法では、同一レベル内でもモデル例文の判定にばらつきが見られたが、判定者のコメントからレベルごとのモデル例文の特徴が明らかになった。例えば、各レベルに合った語彙や表現が求められること、A2.2 以下のレベルでは視覚情報が必要なことなどである。両手法の結果を統合することで、各レベルに適したモデル例文の特徴を明らかにしようとしたが、日本語文章難易度判別システムを用いた分析では、期待する結論とならなかった。しかし、特に本研究における日本語教師によるモデル例文の主観的判定を通じて、Can do 記述をより具体化し、モデル例文を選定する際の基準を確立する必要性が確認された。

今後の課題として、より大規模なデータセットや、各レベルに適切な語彙や表現に関する分析の必要性が挙げられる。また、モデル例文の計量的な分析においてもより高度な分析を検討していきたい。

#### 謝辞

本報告は JSPS 科研費 JP23K00617 の助成を受けたものです。またワークショップに参加してモデル例文を選定してくださった先生方に深くお礼申し上げます。

#### 参考文献

谷誠司・宮崎佳典・坂本勝信・内山夕輝・河口美緒 (2024) 『『日本語教育の参照枠』

活動 Can do「読むこと」の例文収集ワークショップの報告」『常葉大学大学院国際言語文化研究科研究紀要』5, 1-9

日本語文章難易度判別システム (<http://jreadability.net/>)

文化審議会国語分科会（2021）日本語教育の参照枠 報告. 文化審議会国語分科会. 文化庁

Green, A. (2012) Language Functions Revisited: Theoretical and Empirical Bases for Language Construct Definition Across the Ability Range. *English Profile Studies 2*. Cambridge: Cambridge University Press.